

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 96 2023年8月



〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>

追悼 元平壤エリート

宋 允復(本会副代表)

当会の講演会に幾度か登壇いただいた元平壤エリート氏が今年7月20日亡くなった。享年60。

ソ連崩壊前の1980年代にウクライナ共和国の軍事アカデミーに留学し、ミサイルの姿勢制御を学んだ。「授業でロシア語を使うのは仕方ないとして、それ以外はウクライナ語を話せ」という学友の言葉に、ウクライナ人の強烈な反ロシア感情を知ったという。

北朝鮮帰国後は「第二自然科学院」(後の国防科学院)でミサイル開発に携わった。

フルンジェ軍事アカデミー事件(ソ連留学組の軍人による反金日成クーデター陰謀)にも連累した。クーデター勢力は敗れて清津のソ連領事館を包囲、進入することでソ連に直接介入の口実を与えようとした。ゴルバチョフの了解があった。しかしリーダーがなぜか当初の決行期日を延期。ソ連崩壊後にロシア側から情報が洩れ、関係者は一網打尽に。エリート氏は下っ端であり、上官の指示に従っただけとして死を免れた。張成沢の引きがあったという。

氏は90年代の一時期人民保安省に所属した。北倉18号収容所での勤務を経験している。「有事の際はまず収容者を処分し、後に敵との戦闘に移る」旨の金正日のお言葉を見せられた。「深化組事件」後、大興に再連された17号収容所に18号収容所から数千人を列車で移送した。この経験が当会と接触する縁となった。氏の収容所関連証言は2014年の国連北朝鮮人權報告書にも盛り込まれた。

氏が亡命を決意したのは金正恩が後継者としてお披露目された2010年10月以降。特に正恩と金慶喜に大将称号が与えられたのに憤った。「軍服を汗と血で染めながら数十年奉仕して、ようやく数万人に1人到達するのが大将の階級だ。女子供のおもちゃではない」

金正恩の権力が確立する前に体制を瓦解させる、これが亡命の動機だった。

韓国の国策研究機関に籍を置きながら、北朝鮮権力構造の弱点を突く戦略を指南しようと官界、政界の有力者に接触したが、「韓国は北朝鮮体制を崩壊させる意志も能力も失っていた」と、自らの見込み違いを後悔した。

北に残る親族を考慮し表舞台には露出しなかったが、第二自然科学院ミサイル開発部門での経歴と、亡命後も維持していた北との接線ゆえに、北朝鮮のミサイル発射、核実験の折々に韓国政府筋にフリーイングし、メディアの取材に応じていた。

☆☆☆☆☆

北朝鮮に留まっていたなら、2013年12月の張成沢粛清に連座したであろう。亡命で命拾ったことになるが、誇り高きエリート氏にとって韓国での暮らしは強いストレスを伴ったようだ。自由の制約を嫌気して国策研究機関から離れ、試行錯誤していた。

二年前に悪性筋肉腫で手術を受けている。回復し、しばしば中国、ロシアに渡っていたが、今年に入ってがんが全身に転移した。

「コロナワクチンは危険だから接種しない方がよい」と幾度か話したものの、「分かってはいるけど、打たないと海外に出られないんだよな」という。

配偶者に同うと、4回接種済みでコロナには感染しなかったというが、小生はターボ癌を疑った。

☆☆☆☆☆

氏との知己を得て多くを学び、良き時を過ごした。感謝する。ここ数年コロナ禍で直接会う機会を持たなかったことが心残りだが、あの世で話す機会があるろう。

氏は自らの経験をコツコツとまとめていた。いずれ会員各位と共有したい。

北朝鮮が出した韓国の人権批判本

『人権凍土帯』のお粗末

山元 泰生 (NO FENCE 会員)

北朝鮮が最近、韓国の人権状況をこき下ろす本『人権凍土帯』を出版した。韓国を「世界最悪の人権不毛の地」と決めつけているから驚きだ。

韓国の「聯合ニュース」などによれば、出版したのは北朝鮮の党統一戦線部傘下の平壤出版社。98ページにわたる「大作」で、前書きでまず韓国を、「人間の自由と初歩的な生存の権利さえすべて蹂躪する人権不毛の地、南朝鮮の人権の実情を暴く」と力説している。

内容は、テーマを①容赦なく抹殺される社会政治的権利、②無残に踏みつけられる経済文化的権利、③犯罪、女性蔑視、倫理や道徳に背く行為の横行、④侵略者の軍靴のもとで苦しむ人権、の4テーマに分け、韓国政府のやることはあれもこれも「人権侵害」「人権抑圧」とこき下ろしている。

今日の韓国社会については、「自殺率が高く、就職難、労働災害、女性・障害者差別、児童虐待などが横行している」などと強弁。特に失業者数については、韓国統計庁によれば最新のデータで80万7000人であるのに、「特に尹錫悦政権になってから580万人になった」と桁違いの数字をでっち上げ、非難の根拠にしている。

さらに韓国の大学生については、「その88%が登録金（授業料）を調達するため、

アルバイトと呼ばれる放課後労働をしており、女子学生は体まで売っている」などと決めつけている。

北朝鮮が最も噛みつきたいのは、在韓米軍との絡みらしい。「在韓米軍は、数十年にわたり南朝鮮の空と地、海を自国のもののように占領し、環境汚染、殺人、強盗などの各種犯罪を重ねている」と非難。「米国にとって南朝鮮住民は水辺のカモ、山中のキジ、野ネズミに過ぎず、女性はずの慰みものに過ぎない」と書いている。

これだけあることないこと書かれれば、韓国の人びとも呆れて怒る気にもならないのではなからうか。

だが、北朝鮮が今こうして、人権問題で韓国に噛みついたことには理由がある。

韓国政府は今年3月、久しぶりに『北朝鮮人権白書』を公表。金正恩独裁政権による強圧的な住民統制から強制収容所の運用まで、北朝鮮でのさまざまな「人権蹂躪」の実情を明らかにした。これは金正恩政権にとって、痛いところを突かれ相当にこたえたらしい。

今回の北朝鮮による「韓国の人権批判」なるものは、これに何としてでも反駁し対抗したかったのだ。

今さら「人権とは何か」説明するのもおこがましいが、一言でいえば「人びとが自由に生きる権利」であろう。

金正恩政権にしても、人権の何たるかを知らないわけがない。だがこの国は、2400万人住民の生存・生活上のあらゆる権利を大幅に制限し、生活上の些細なことでも統制・監視しなければやっていけない国なのである。言い換えれば、人権は金正恩政権にとって最も煩わしいことで、これを時には破壊しなければ成り立たないのだ。

例えば、最近の北朝鮮で大きな問題になっていることのひとつに「韓流」（韓国文化の流入）がある。これは独裁政権にとって容認しがたいことらしい。

金正恩政権はこれを「資本主義的腐敗」などと決めつけた。そして「反動思想文化排撃法」など3つの法律を作り、各地の安全部（警察）と保衛部（秘密警察）を総動員して取り締まっている。「韓流」に少しでも触れたものを次々に逮捕、拷問にかけ、裁判もせず教化所（刑務所）や管理所（政治犯強制収容所）送りにしている。

北朝鮮の若者たちが、韓国のドラマを視たり音楽を聴くことが、いったい何の「資本主義的腐敗」これでは「人びとが自由に生きる権利」もへチマもない。

『人権凍土帯』には、韓国の人権状況をいろいろとこき下ろしたうえ、自国の人権状況については次のように自画自賛している――

「南朝鮮に比べわが共和国（北朝鮮）は、無料教育、無料治療など社会主義の福祉制度や障害者など弱者を保証する事業を掲げ、人権を十分に保障している」

だが、韓国および日本に住む脱北者らの証言によれば、この国での「教育や医療は無料」なんて、ずっと昔からのウソ。教材や薬などが全くもって不足しているなかで、教師や医師らによるワイロの要求が横行し、「特別なカネ」を払わなければ、まともに卒業もできないし、治療もろくに受けられないありさまだという。こんなことがいったい何の「社会主義の福祉制度」だろうか。

折しも米国の権威ある人権団体「フリーダムハウス」は、最近公表した報告書のなかで、北朝鮮の人権指数を100点満点の3点と評価し、「世界最下位国」と位置づけた。ちなみに韓国は83点で、「ほぼ完全な自由の国」に分類している。

北朝鮮の独裁政権は、もしかしたら、これら表面化すればするほどボロの出る人権問題から墓穴をほることになるかもしれない。

もう一つの追悼文 韓国の著名な現代史家

姜万吉氏のご逝去に対して 小川 晴久

『分断時代の歴史認識』という著書で知られている姜万吉先生が、去る6月23日に89歳で亡くなられた。私は昨年元旦に亡くなられた池明観先生(TK 生)を介して一度だけ東京でお会いして、とても重要なことを学んだ。東アジア世界で日本だけが国名に共和制の規定が入っていないという指摘であった。南北朝鮮も大陸の中国も国名に republic が入っていると。日本の国名は只の Japan。1941年生まれの私は学校で国民主権(主権在民)、平和主義(戦争放棄)、基本的人権の三つが、今の憲法の三大原則であることを聴いて育った。いつだったか、象徴天皇制を入れて4大原則であるという主張が登場していることを知り、衝撃を受けた。象徴天皇制は三大原則となじまないからである。その証拠に敗戦直後の1948年ごろ、当時の東大の法学部教授宮沢俊義氏は新しい憲法を共和制の憲法と規定していたことを知った。その根拠は国民主権である。今一つ次の指摘があった。南北朝鮮は国名に republic の規定を持ちながらも、どちらも共和制を実現できていないという指摘であった。どちらも民主主義が実現していないからだと言われた。目から鱗(うろこ)の指摘である。この指摘のあったのは1983年ごろ、韓国が全斗煥時代の軍事政権であった。南北がどちらも民主主義を実現した時、南北は統一するという指摘もこの時為された。とても新鮮な指摘であった。それから40年。韓国は民主化され、民主主義は実現した。北の民主化が残されているだけだ。私は姜万吉先生に大変不満であるのは、その後北朝鮮の民主化のために発言をされ、戦ってこれなかったことである。ただ2001年ごろ北朝鮮を訪問され、先生が所有されていた韓国近現代史の資料を北に寄贈されたことを知った。この点は評価されてよい。以上を追悼の文とする。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 97 2023年9月



〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>

猛暑の毎日、夜中が急に涼しくなりました

会報の遅れ、申し訳ありません。去る7月下旬に刊行された『囚われの楽園』

(李泰炅著、川崎孝雄訳、ハート出版、本体1500円)の紹介を致したいと思
います。著者は1960年8歳のとき家族と一緒に北朝鮮に渡り(下関生まれ)、
46年間も北で暮らし、脱北過程で2年4か月ミャンマーで刑務所暮らしをし
たのち、2009年3月7日に韓国に入国した人です。日本から北朝鮮に渡った
在日の人たちは、「反日本人野郎」(パンチョッパリ)と蔑まれ、差別と監視の生
活を強いられましたが、本人の大変な努力で、軍人になり、労働党員になり、医
者になり、地方の病院長までなりますが、自由の全くない北の生活に絶望し、脱
北を決意し、26年後に決行します。ミャンマーでの2年4か月の刑務所暮らし
は予想外の出来事で、本書の最後の4分の一はシラミと同居の北ではない悲惨
な体験記ですが、それは別として、本書の貴重さは北朝鮮の実態を赤裸々に知ら

せてくれていることです。NO FENCEの会員諸氏はかなり承知していることですが、上記の経歴を持つ著者の北朝鮮報告は、決定版と言っても言いものです。以下紙幅の許す限り、小見出しを付け、本書から抜き書きします。編集子(小川)の私が、本書を読んで学んだことは、金氏一族は武力統一しか望んでいないという事実です。私たちは早く南北の平和的な統一を願っていますが、北の体制側は武力統一しか望んでいないという事実です。これを本書の内容紹介の表題とします。

北は武力統一しか考えていない

〈北朝鮮の軍隊〉「最高司令官という神のために軍人は「銃と弾丸」にならねばならない。人間の価値がいかに無視されているかは、軍人を一人一人を「弾丸」と呼ぶことに表れている。韓国では十八ヵ月間軍に服務するが、北朝鮮では百二十ヵ月という青春時代を金氏王朝の奴隷として抵当に取られる。報酬もない奴隷暮らしの賦役であり、私にとって軍服務は青春を金氏王朝に盗まれた人生窃盗事件だ。」(78頁)

北朝鮮の軍隊生活で最も耐え難いのは空腹だ。軍務と生活の疲れは耐えられても、石でも消化するという壮健な青年兵士に与えられる毎食二百グラムの飯と塩汁、そして大根漬が全部の食事では物足りず、空腹に耐えられなかった。

〈必ず武力統一〉北送後は一日も欠かさず「米帝と南朝鮮傀儡徒党を討つて祖国を統一しよう」「平和統一はありえない」「必ず武力統一しなければならない」「偉大な首領様の代に武力統一を成し遂げなければならない」と、耳にタコができるほど叩き込まれた。こうした政治教育と方針、教示は聖書の十戒より確実に脳に刻まれている。

〈北朝鮮の生活は単純〉「北朝鮮での生活はとても単純だ。毎日決まった時間に起きて、各自に任せられた仕事をして夜家に戻る。統制と監視がない空間で緊張を解き、家族と食事をして話を交わし、十時に寢床につく。自分の頭で考える必要がない。全ての事は党が決定し、それに従えばよい。従わなければダメだ。先んじても遅

れてもならない。自分の頭で考え、少しでも創意性を持って動けば批判を受ける。頭の良い人ほど逆転した社会がきちんと見えなくなる。」(90頁)

〈全土が争う国、猜疑嫉妬する国〉「理解し合って寡黙に暮らす国でなく、全土が争う国、猜疑嫉妬する国を作った。人を陥れなければ自分が生きられない世の中、履まれないために踏みつけなければならぬ社会、これが世界で一番暮らしやすいという朝鮮人民共和国、社会主義社会の真の姿だ(109頁)。

民生を義
〈「苦難の行軍」と飢餓者〉「苦難の行軍」とは、通常、北朝鮮が深刻な食糧難と経済難に苦しめられた一九九四年から一九九八年までの時期を言う。この時期、政府はまったく食糧配給ができず、数多くの人々が飢えて死んだ。…北朝鮮の為政者は、人民を後回しにして金氏一家の確実な王権樹立を最優先した。一九九四年、金日成死亡後に九億ドルを投入して「金繡山記念宮殿」を作り、遺体をミイラにして永久保存したが、このとき最大見積りで三百万人の人民が餓死した(118頁)。

〈「無償医療」の虚構〉「無償医療」は金日成の抗日闘争期に始まり、一九六〇年二月の最高人民会議で「全般的無償治療制」として法制化され、金日成と離しては語れない施策であり、「無料教育」と併せて社会主義の優越性と称して宣伝し、在日同胞が大挙して朝鮮に移動する大きな動機になった。しかし、これは初めから虚構に過ぎなかった。確かに「無償治療」だが薬がなかった。薬がない「無償治療」をなんと言うべきか。ろくな医療サービスも、選択権もないのが北朝鮮の医療システムだ。それでも八〇年代初めまでは、それなりに形式を保っていたが、「苦難の行軍」という台風で一気に崩れた(112頁)。

〈国連、海外からの支援物資、90%が軍へ、60%が幹部へ〉「国連や各所から受けた全ての支援物資は、九十パーセントを軍に納めなければならないのが党の方針です。その中の十パーセントは党委員会と被殺者家族などの暮らしの面倒を見なければならない対象に供給しなければなりません。私たちも、軍のどこへ回るのは知りません。分かってください。」(注、著者が院長をした病院の糧政課長の答弁) 党のすることは知ろうとせず知っていても言うてはならないのが北朝鮮で生きる人々の常識だ(124頁)。…幹部の間では、受け取った支援の六十パーセントは上級の為に使え、そうしなければ直ちに幹部職を解任されるという話が公になっていた(125頁)。

〈自由への渴望、脱北を決意〉 日が経つにつれて自由を渴望する思いが募っ

ていった。静かな夜一人になると、今までの苦痛とこれから想定される不幸、そして自由と人権について渴望が膨らんだ。私は、自由とは思ったままに生きること、人権とは人間らしく生きることだ、とだけ知っていた。主体思想と党の唯一思想、金日成の革命活動はテレビのスイッチを入れればいつでも出てくる。これが国民の自由と人権に反する思想だと知った瞬間から、北朝鮮は私が居る場所ではなくなった。私は家族に、いつかは必ず脱北すると口にするようになった。それを聞いていた長男は、脱北して捕まれば反逆者の家族になるのではないかと心配した。

九〇年に入り、母の体力と気力は目に見えて衰えていった。苦難の行軍の影響だろうが、七十歳の峠を越えた母は手を付かないと立ち上がれなくなった。ある日、母は私を呼んで座らせた。「テギョン、もしチャンスがあれば日本に行きなさい」準備していたように一気に話した。それまでは、「絶対に日本に行くなど考えないで、かんがえるだけで収容所行きだよ。そして、家族全員が死ぬことになる」と、いつも心配してため息をついていた母だった。……「再び下関での生活に戻れるならば命も喜んで差し出そう」というのが母の本心であったろう。三カ国を巡って一番幸せだった時期を忘れられず、「もしいけるならば日本に行きなさい」というのが、母が私に残した人生総括の最後の言葉だったのである。私は、生死を越えた脱北の際、母のこの言葉が力になった。」

以上で李泰炅(イテギョン)さんの北朝鮮での46年間の体験記の紹介を終わります。去る10月2日都内で本書の出版記念会が難民救援基金主催で開催されました。著者の李泰炅さんにお会いできました。私は個人的に伺いました。お父さん、お母さんはいつお亡くなりになられたのかと。お父さんは1988年頃、お母さんは1998年頃との答えでした。訳者の川崎孝雄氏はNO FENCEの会員でもあります。川崎さんから本訳書を頂いたとき、聞きました。原書の韓国語版はいつ出版されたのかと。今回の日本語版が初出版であると聞き、びっくりしました。川崎さんは李泰炅さんと10年前からの知り合いであるとのことでした。本書は急ぎ韓国で原書が出る必要があります。また英語版も。李泰炅さんが心の故郷(ふるさと)は日本だと本書で語っておられることは日本人として少しばかりうれしいです。戦争放棄の第九条を持つ今の日本はとても大事な国です。この九条を手放してはなりません。これを守る努力をする条件で、李泰炅氏の日本を心の故郷とさせていただけることは、本当にうれしいです。皆さん、本書をお読みください、広めて下さい(文責、小川 晴久)。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 98 2023年10月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
http://nofence.jp/



東京高裁、原告の主張を認め、地裁判決を取り消し、地裁に差し戻す

北朝鮮帰国事業訴訟 損害「日本に管轄権」

「過酷な生活」高裁が差し戻し

「地上の楽園」などと宣伝された北朝鮮帰国事業で移住し、過酷な生活を強いられたとして、脱北者4人が北朝鮮政府に計4億円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決で、東京高裁（谷口園恵裁判長）は30日、「日本の裁判所に管轄権がある」と判断し、訴えを退けた一審・東京地裁判決を取り消して審理を地裁に差し戻した。

高裁は北朝鮮の行為について「事実と異なる情報で渡航させ、過酷な状況で長期間の生活を余儀なくさせた」と述べた。

原告は1960〜72年に北朝鮮に渡り、2001〜03年に脱北した4

人。北朝鮮側は全く出廷せず、主張書面も提出していない。

地裁は、北朝鮮側の行為を①虚偽の宣伝で勧誘した②出国させずに在留させたに付け、①は除斥期間（20年）が経過し、②は国外の行為で日本の

裁判所に管轄権はないと判断した。

一方、高裁は、①と②は「継続的な不法行為」と評価。侵害は当初は日本で発生しているため、管轄権は日本にあり、地裁でもう一度審理すべきだと判断した。

原告側代理人の福田健治弁護士は会見で「画期的な判決」と評価。差し戻し審で賠償が認められれば「日本国内にある北朝鮮の財産の差し押さえを検討したい」とした。

（田中泰大）

朝日新聞
DIGITAL

10/30(月) 20:23 配信



笑顔で判決文を掲げる原告や弁護士、支援者ら=2023年10月30日午後2時25分、東京都千代田区の東京高裁前、北野隆一撮影

朝日新聞 2023.10.31朝刊記事

全く凄いの判決を聴いてしまった。

帰国事業訴訟高裁判決で、^{判決}1. 原判決を取り消す。

2. 本件を東京地方裁判所に差し戻す。という判決がでた。

それを目のまじりに聴いたのである。二〇一三年一月三日午後

二時過ぎ。原告側勝利判決であった。

一審は原告敗訴、二審ではその逆転判決。こんな

劇的な判決を体験したのは、私の八十二年の生涯で始め

てであった。原告も皆驚き、弁護団も皆んな驚りた

傍聴者も皆驚いた。北朝鮮当局も、金正恩を被

告として訴える原告五人(四人)の主張を東京高裁は認

原告の一人高政まさん、今年二月に逝去

めたのである。計五億円の損害賠償を認めただけでは

ないが金額を除いては原告の主張を認めた判決で

あった。驚かないわけにはいかない。真実が勝利したので

ある。原告の石川学さんは夢を實現したと語った。

二〇一三、一、三〇 午後一時四七分

小川晴久識

判決を聴いて帰宅した夜書き記した私の感慨を載せて頂いたことを許す。判決全文は Net で「北朝鮮帰国裁判弁護団」と入れ、そのブログの弁護団の報告文がアクセスし、プリントアウトできます。A4、21枚です。(小川晴久)

(実稿) 韓国統一部が「脱北者聴き取り調査」でまとめた

北朝鮮：首都・平壤と地方との格差の意味

NO FENCE 会員 山元 泰生

この「聴き取り調査」の底にある実際の姿は、どうなっているのだろうか。

韓国統一部が最近、2011年以降に韓国入りした脱北者3415人への聴き取り調査をもとにまとめた「北朝鮮の政治・経済・社会動向の分析」結果を公表した。調査の特長は、脱北者の証言を通して北朝鮮の首都・平壤とそれ以外の地方との生活格差を、いくつかの生活用品普及率から浮き彫りにしようとしたものだ。

脱北者の話から携帯電話やパソコン、一般電話、それに冷蔵庫やカラーテレビ、扇風機など、いくつかの生活用品の普及ぶりを比較してみると、以下のような結果になったという。

■北朝鮮の生活品普及率でみる首都・平壤と地方の格差――

| <生活品> | <平 壤> | <国境地域> | <非国境地域> |
|--------|-------|--------|---------|
| 携帯電話 | 71・2% | 31・1% | 36・0% |
| パソコン | 58・3% | 16・4% | 16・9% |
| 一般電話 | 76・5% | 36・5% | 33・6% |
| 冷蔵庫 | 72・6% | 24・8% | 32・3% |
| カラーテレビ | 84・7% | 76・2% | 63・6% |
| 扇風機 | 78・2% | 52・6% | 62・2% |
| 食糧配給率 | 65・2% | 32・4% | 27・9% |

ここで言う「国境地域」とは、中国と接する咸鏡北道（北西部）、両江道、慈江道、平安北道一帯のことであり、「非国境地域」は、東海（日本海）に面する咸鏡北道（南東部）、咸鏡南道、江原道一帯を指している。

なお、統一部が面接やアンケートで調査に当たった脱北者は、国境地帯の出身者が大半を占めているうえ、脱北者の多くが実際に北朝鮮で暮らしていたのは2011年以前であることを考えても、これらの調査結果は、それなりに貴重なデータで、この、世界一いびつな国の、さらに暗部を知る一つの手がかりになりそうだ。

調査結果で、まずはっきりしていることは、これら生活品の普及率について、首都・平壤と地方とでは、2倍から3倍以上の格差があるということだ。

平壤と地方とのあいだにこれほどの格差があるとすれば、その理由はこの国の支配手段としての身分制＝階層・成分制にあるようだ。

北朝鮮は建国後まもなく、支配住民を、「核心階層」「中間（動揺）階層」「敵対階層」に区分けしたうえ、それをさらに30以上の「成分」に仕分けし、徹底した区別・差別支配を重ねてきた。そして首都・平壤には、「金王朝」に忠実な「核心階層」に属す者およそ300万人だけを住まわせ、「中間階層」や「敵対階層」を地方＝辺境の地に追いやった。

例えば朝鮮戦争で「勇敢に戦って戦死した兵士」の孫だからといって、これが何の「核心階層」かと、ばかばかしくも感じるのだが、その仕分けと差別化が、今でも歴然として北朝鮮の支配構造の核をなしている。だから、平壤と地方とのあいだに、生活品の普及率に大きな格差があるのは当然のことともいえよう。

だが私は、これら韓国統一部がまとめた数字も、北朝鮮の実情を必ずしも正確に表したものではないと感じている。なぜなら、この国ではまず、携帯電話は政府当局の厳重な管理・監視下に置かれており、自由に購入・使用できるものではないからである。

脱北者らの話によれば、許可を得て携帯電話を自由に使用できる者は、平壤であろうと地方であろうと、党・政府・軍などの関係者や政権と繋がりのある新興の成金層などに限られている。したがって一般の住民たちは、中国あたりから密輸されたチップ式の携帯をもぐりで使用し、見つければ「スパイ」などの疑いをかけられ厳罰に処せられているありさまだ。

だから実際の普及率は、平壤でも地方でも統一部が調査・推計したそのまた半分以下ではなからうか。パソコンや一般電話についても、当局の嚴重監視という点ではほぼ同様であり、一般住民のあいだでこれほど普及しているはずはない。

冷蔵庫やカラーテレビ、扇風機についても、日本や韓国のようなピカピカの製品と賑やかな市場を想像するのは大きな誤りであろう。特に地方で食うや食わずの生活をしている住民にとって、何を冷やす冷蔵庫、誰が見るカラーテレビであろうか。

電力の供給が1日に朝夕1～2時間しか行われぬ生活にとって、何の扇風機であろうか。たとえ持っていたとしても、捨ててしまいたくなるようなボロボロのシロモノであろう。

それはともかく、統一部が明らかにした調査結果で、最も注目すべきことは「食糧配給率」の問題である。

北朝鮮では2000年代の初めから食糧問題が特に深刻になり、今日までほとんど改善されないままである。その結果、配給制度が徐々に崩壊して細々とした市場での取引に取って代わられたことは周知の事実である。したがって、首都・平壤にしる地方にしる、ここにまとめられた「食糧配給率」なるものは、たとえ脱北者の証言をもとにしているとはいえ、あまりあてにならない数字であろう。

それでも首都・平壤は、新型コロナ蔓延の一時期を除いて、国内収穫物の優先的配送や中国からの輸入によりかなりの部分を賄ってきた。食糧不足の煽りをまともに被ってきたのは、食糧生産地であるはずの地方である。

韓国メディアなどの指摘によれば、例えば咸鏡北道や江原道では、食糧不作の大きな原因の一つである肥料不足を補うため、10年以上も前から「人糞作戦」というのを展開してきた。野外につくられた共同便所などの人糞を肥料に使うのだが、その人糞がまだ柔らかいうちに泥棒に盗まれるため、農民たちは交代で24時間の警戒に当たってきたのだという。

地方ではまた、食糧の配分をめぐるトラブルも絶えないという。農民が農業共同体や許されているはずの小さな個人農場などで、せつかく米やトウモロコシを生産・収穫しても、当局が「税金代わり」に持っていき、飢えた軍部隊の兵士らが収穫期を狙って盗みに来る、平壤や都市部から農業支援に来ているはずの学生らが奪い合う……。これらが統一部の発表した数字の底にある実際の姿なのだ。

今や地方の農作物は、深刻な収奪・掠奪のマトになってしまっていると言ってもいい。全くもって「食糧配給率」どころではないのである。

その結果、どんなことが起きているのだろうか。いま、北朝鮮では「絶糧世帯」と言って、一家で飢え死にってしまう事件も数多く報告されているが、それらのほとんどすべては、地方＝辺境の地の住民たちなのである。

その点、地方住民の暮らしは、統一部がまとめたデータで見ると、はるかに厳しいものであろう。このままでは首都・平壤との格差はさらに何倍も進み、この国の瓦解の引き金になるかもしれない。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 99 2023年11月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

http://nofence.jp/



対北ビラ散布禁止法は違憲 韓国憲法裁判所が9月26日違憲と判断

今から約3年前、文在寅政権は、北朝鮮側の強い要請を受けて、対北ビラ散布禁止法を2020年12月14日国会で可決し、12月29日公布した。これに対し27の北朝鮮問題人権団体と「自由北韓運動」(朴相学代表)は、同法が表現の自由を過度に制限しているとして、憲法裁判所に訴えた。政権が現在の尹錫悦政権に代わったこともあって、今回韓国憲法裁判所は、同法を違憲と判断した。これを受けて韓国統一部は「歓迎する」と表明した。そして禁止法では国境周辺だけでなく、韓国全土でのビラ散布の禁止であったが、国境周辺住民の生活への配慮は考慮するも、ビラ散布を一律に自制する要請はしない方針であるという観測が流れている。北朝鮮内部に人権の思想や外部の情報を入れていく必要から、今回の違憲判決を大いに歓迎したい(連

定夏 小川 晴久
合ニュースより。山元泰生氏提供)。

231012 朝鮮日報 日本語版

【独自】中国、9日夜に600人超の脱北民を強制送還…

まるで軍事作戦、刑務所5カ所で一斉実施

コロナ禍後最大規模の強制送還

中国政府は9日夜、吉林省と遼寧省の刑務所に服役していた約600人の脱北民を突然北朝鮮に強制送還した。複数の現地筋が11日に伝えた。中国による脱北民の大規模強制送還はコロナ禍後では今回が初めてだ。

中国吉林省琿春市の現地筋によると、中国公安は9日夜6~8時ごろ、トラックを使って琿春、図們、南坪、長白、丹東などの税関を通じ突然脱北民の強制送還を行った。この現地筋は「アジア大会閉会式直後、軍事作戦を思わせる形で脱北民を強制送還した」と説明した。別の現地筋は「中国政府は保安のため送還の数時間前になって服役中の脱北民に準備を命じた」「琿春刑務所に服役していた脱北民は送還の3時間前に現地公安を通じて泣きながら知人に支援を求めた」と伝えた。中国は今回の強制送還に民間のトラックを使ったという。

国連や複数の北朝鮮人権団体などは「コロナ渦中に逮捕され中国各地の刑務所に服役している脱北民の数は2000人以上」と推定しており、さらに「強制送還された場合は刑務所や政治犯収容所など重い刑に処される可能性が高い」として中国政府に送還の中止を求めてきた。家族が中国で逮捕された脱北民は先日、尹錫悦大統領に「強制送還を防いでほしい」という内容の手紙を送った。中国で娘が拘束されている脱北民のパク・ソンヨンさんは先月22日に会見を開き、尹大統領に「死の直前にいる娘を助けてほしい」と訴えた。

韓国統一部(省に相当、以下同じ)の金映浩長官は「韓国行きを希望する脱北民は全員受け入れる」との原則を改めて説明した。韓国外交部の朴振長官も「脱北民はいかなる場合であっても自由意志に反して強制送還されてはならない」と発言している。ところが中国は韓国や国際社会からの懸念を無視し、今回大人数の脱北民を強制送還した。ある外交筋は「中国は北朝鮮労働党創立78周年(10日)の前日(9日)夜、600人以上の脱北民を突然送還した。これは労働党創立記念日のプレゼントのようなものだろう」との見方を示した。

一方で韓国政府も現状把握に乗り出すなど事態を鋭意注視しているという。キム・ミョンソン記者

太永浩氏の韓国亡命の理由と北朝鮮内部の変化

太永浩氏が前記「対北ピラ散布禁止法」が公布された2020年12月29日に発表した論文(「対北ピラ散布禁止法と北朝鮮の表現の自由」)がある。最近その序論を読み返して感銘を受けたので、その要旨をここに紹介する。

〈亡命の経緯〉彼が脱北し、韓国に亡命した経緯には次のような長い経緯があった。

(一) 12歳の時、平壤外国語学院に入学して、14歳の時アメリカ映画『サウンド オブ ミュージック』を観る。

北ではアメリカは「不倶戴天の敵」として徹底して教え込まれる。しかし核心階層の子弟たちは、英語を学ぶために平壤外国語学院に入学するが、学内で秘密裏に英米の映画を観る。彼は14歳の時『サウンド オブ ミュージック』を観て、主題歌「エーデルワイス」を毎日人知れず歌うようになった。

(二) 1997年デンマークで韓国映画『太白山脈』を観て、北の体制への見方が根本的にひっくり返る契機となった。

その映画の最後の場面の台詞は次のようなものであった。ふもとの村を占拠していた南労党のパルチザン部隊の隊長が、米軍が南下してきたので山中に戻る時、その村の友人に、また戻ってきて社会主義の理念を打ち立てるからと語ると、その友人は、「あんたたちは絶対に勝つことはない。なぜ勝てないか?そのどんないい

理念も人間の生命を重視しない理念は、絶対に支持を受けることが出来ず、成功することはない」と語った。この時その映画と一緒に観ていた同僚の北朝鮮の外交官たちは、互いに一言を語らなかった。余りに共感する台詞(せりふ)だったためである。

- (三) 私はこの時から北の体制に嫌気を感じ始めたが、家族や友人たちのことを考え、脱北を実行できなかった。
- (四) 私の思想と信念が揺れ動いている間、外交官の家に生まれた私の子供たちはロンドンと平壤の間を、3~4年ごとに往ったり来たりしながら、主体思想と自由民主主義の教育の間を往き来し、小学時代、中学時代を送った。ロンドンの学校に通っている間に、私の子供たちは、彼らの生活が21世紀の奴隷と違うことを感じ取ることが出来た。
- (五) 私は金日成と金正日による北の世襲体制が終わることを期待した。しかし、2011年金正日が死亡した後、金正恩体制に入るや、私の期待は水の泡となった。万一、金正恩も金日成や金正日のように自然死で死亡したら、私の子供たちは無論、私の孫の代も奴隷のような生活が継続することを意味する。私は子供や孫たちまで奴隷のように生かせることは出来なかった。だから私は北を出て、韓国にやってきた。
- (六) 私はロンドン駐在北朝鮮大使館を脱出しつつ、私の子供たちに「今日からお前たちは、奴隷ではない。父親としてお前たちにしてやれる最大で重要な遺産は、お前たちを自由なからだにすることだ。今日からお前たちは、自分の決心によって選択することが出来る」と話して聞かせた。
- (七) 身の危険を考慮すれば、アメリカか、よく知った西方社会に行くことが出来たが、私は韓国に行って南北統一運動を通して、奴隷と変わらない北朝鮮の住民たちを解放することを心した。

〈北朝鮮内部は変化している〉

国際社会は北朝鮮の閉鎖性によって内部の変化をよく知ることは困難だ。私が語ることが出来るのは、北朝鮮はハッキリと変化しており、住民たちが変化を進めていることである。これは2000年代以後、住民たちがこれ以上当局の配給に期待せず、市場と密輸で自分たちで生存を実現し始めたときからであった。1990年代中後期の“苦難の行軍”の時期、当局の配給の約束だけを信じて待っていた数十万、数百万が餓死した事件は、北の住民たちの意識を完全に変えた。この時に餓死を避け、中国に渡った数十万の北朝鮮住民中、大多数は食糧を求めた後、北朝鮮に帰ってきたが、3万人を超える脱北者たちは韓国行きを選んだ。彼らは北朝鮮にいる父母や兄弟にお金を送り、韓国の情報を与えた。北朝鮮に送られたお金は、商売の元手となり、市場を動かしていった。密輸を通して中国と韓国の商品が北朝鮮に流れていき、自然に韓

国映画、ドラマが北朝鮮住民たちの心をとらえ始めた。そのようにして徹底して外部情報を阻んできた北朝鮮当局の封鎖網に穴が開き始め、今は阻むことが困難な事態になっている。北朝鮮内部の韓流の現象である。

特に将来金正恩と共に北朝鮮を引っ張っていかねばならない20代、30代のミレニアル(2000年代)世代で、韓国文化の影響が蔓延している。彼らは北朝鮮の配給体制が壊れた以後に生まれ、北朝鮮が宣伝する教育、医療の社会主義福祉システムの恵沢は教科書だけで学ぶだけである。北朝鮮当局はこの世代に主体思想が透徹できないことを憂慮している。

今韓流は北朝鮮内でアメリカと韓国に対する敵対感を弱化させ、民心を韓国に向きさせている。米国と韓国に対する北朝鮮住民たちの敵対感が少しずつ弱化し、憧憬に変化しているこの現実が、まさしく将来朝鮮半島の持続可能な平和と漸進的統一方式である(紹介、文責 小川 晴久)。

(予告)現在韓国の国会議員である太永浩(テヨンホ)氏は来月12月12日～13日来日され、13日午後、参議院国会議員会館内で講演をされる。

太永浩氏 講演会

日時 12月13日(水) 午後2時～4時

場所 参議院議員会館 特別会議室

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 100 2023年12月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

http://nofence.jp/



本号は100号なのですが、プリンターの故障のため手書きニュースレターにてお送り下さい。

現在北の強制(政治犯)収容所 8ヶ所, 20万人収容 耀徳(ヨドク)は廃止されたい - 12/2 文東熙講演報告 -

去る12月2日 本会ではオンラインで北の政治犯収容所の現況について Daily NKの記者文東熙(ムンソヒ)氏の報告を見ました。Daily NKの2020年からの「収容所の内部探索」企画に基づいたもので、なお今から2年前の2021年8月の本誌174号で同じ文東熙記者の記事を紹介していることがわかりました。2021年7月27日付のDaily NKの記事で、「2021年北韓管理所収監人員総数現況」という表を翻訳して掲載し置きましたが、今では見ると千名単位の収監者数が記録されていました。今回のオンライン講演でも千名単位の数が披露されていますが、2年間の差を示すものせしう。以下今回の指摘の主要部分を列記しておきます。

一、収容所は8ヶ所

国家保衛省管理 4ヶ所 - 14号, 15号, 16号, 25号

14号(价川 4万人), 15号(耀徳 3.8万人), 16号(明洞 = 化城 1.6万人)

25号(清津 3.8万人)

社会安全省管理 4ヶ所 - 17号, 18号, 平山, 枇峴

17号(价川 4.4万人), 18号(北倉 2.2万人), 平山(平北 1.15万人), 枇峴(1700)

あとの2ヶ所は場所がまだ特定できていない。勝湖里の近く。

二、2020年20万人から2021年28万人と10%増えたが現在20万人に減り、

2020年12月4日制定の「反動思想文化排撃法」により韓流ゲームの国内への広がりに対処し、多数の逮捕者を出す。

「お前たちは黄色の水につかた。またお前たちを赤色にするようにする。」

収容所管理員も増強され、収容者は死ぬまでひどい取扱いをうける教育される。3万人収容所の中で死者が出たのは、このようにひどい扱いのためと思われ。『その場で処刑してもよい。その後で報告。』

死体には再び傷をつける。撲撃を加える。以前はそのまゝ埋めていたが、今は伝染病予防のため火葬する。金正恩の死(朝鮮)の火葬方法が今は収容所にも広がっている。

三、平山収容所はウラニウム採掘場。2021年5月の登場

1日 12~16時間労働。マスクも防護服も支給せず。抗逆の拡張、採掘運搬作業中に被爆。社会安全省が管轄。

四、子供も労働させる。5歳から。10歳以上の母親と生活せざる配慮。しかし11歳からは成人と同じ扱い。子供の権利条約に加盟しているが少しも守っていない。

(注) 文東 熙 氏 1983年生まれ。大学在学中に収容所体験者の手記を能く読んで受け、人権活動に参加。2012~2017 NGO「北韓人権学生連帯」代表。2018~現在 Daily NK 記者。

12.13 太永浩氏 来日講演より

去る12月13日 韓国の国会議員 太永浩氏は来日し、参議院議員会館大会議室で講演された。北朝鮮の人権改善のため日本の政府、政治家、日本の市民団体に対しという趣旨の講演であった。通訳はNO FENCE 副代表の宋允復氏が活躍した。以下氏の提言の主要なものを列挙する。

はじめに氏は去る8月18日 キャンパデロイトで発表された日米韓共同声明に賛同し、三国は北朝鮮の核開発と核の脅威(ついで安保問題)については共同の方針が出来ているが、北の人権問題については方針はまだ出来ていない、これからだと指摘された。この共同声明について編集者(小川)は無知であったので、今本日の朝日新聞に「キャンパデロイトの精神」日米韓首脳共同声明とは何とA4, 6枚にわたる長文の共同声明が添付して日本紙に出ている。とて北の内部と語った。全員読みたい。読者諸氏もご覧いただきたい。この声明を踏まえて、当日の氏の提言がよりよくわかる。この共同声明は安保問題が主で、北の人権問題への言及が弱いのでは

一、 氏は今後日米韓は北の人権問題解決のための共同方針を争ぎ作る必要があると強調し、そして共同行動を争ぎ取る必要があると。来年2024年国連安保理で、米、日、韓が理事となる。安保理で日米韓三国は絶えず、北の人権問題を取りあかすべきである。北の年々人権理事会を中心とした対北朝鮮人権改善決議の中で、中国の脱北者の北朝鮮への送還を批判することを言うべきだと指摘された。

二、 日本政府は北朝鮮の人権問題にとりこむ大臣を任命しなさい。米も韓国も対北人権大使は置かれます。

三、 2024年は UN の COI 報告(対北朝鮮人権状況報告)十週年である。新しい COI 報告を作成すべきである。現行の COI 報告には 2011年に発表した三代目の金正恩の時の10年間の扱われ方を。

オットー・ワンビアの両親が息子の死の横暴に賠償を求めた判決を踏まえており、韓国でも朝鮮戦争の横暴の損害賠償を求めた判決が韓国に出ている。海外や当該国にある北朝鮮の決意を細々と花をを築き上げていくこと進めれば、北朝鮮当局と人権問題を対応させる可能性が出てくる。

太永浩氏の3年前の論文の後半部紹介 本誌前号では「序論」を掲載した。

「第3章 北朝鮮の表現の自由の実態

〈北朝鮮の法律の構造〉 北朝鮮法の一番最高位には金正恩の指示・方針が位置を示す、その下に党の規約である「^{党の}唯一の領導体系確立の10大原則」があり、憲法が三番目であり、各種の法と機関別内部規定が一番下位に属している。

〈強制的な政治活動〉 北朝鮮ではあらゆる住民が、子供のときから死にまで政治活動をするように強制されている。北朝鮮では人間に二種類の生命が与えられていて、これは父母からもらった肉体的生命と首領から受けた政治的生命、即ち靈魂的生命である。年を問わず、北朝鮮住民のほとんどの社会的活動は朝鮮労働党によって統制されている。国民たちが義務的に加入しなければならぬ朝鮮労働党傘下の社会団体を通して、国家は住民たちを監視して、彼らの日常活動を指示する。また政治体制や最高指導者に対するいかなる批判的な表現も許容されないほどにも、北朝鮮住民たちの私生活は国家の監視に置かれている。北朝鮮の住民たちは、あらゆる「反国家的」活動や政府に対する反知意思表明に対しても処罰を受ける。北朝鮮の住民たちは別の住民がこのように「犯罪」を犯したと疑わしき場合は褒賞を受ける。

〈北朝鮮の主体思想〉 北朝鮮の主体思想は宗教的な思想である。主体思想の核心は、「人間は自分の運命の主人であり、自分の運命を開拓する力も自分から生まれる」というものである。しかし人は各々個体であるために開拓する力を發揮しなくては組織化されなければならず、このような組織を築くのは党である。結局党も人民大衆の集合に過ぎないために、金氏一家が築かなければならないという論理である。

北朝鮮という縦の社会では金氏一家は結局は北朝鮮のあらゆる生命体の脳髓で、この脳髓をよく管理しようとは、忠誠と孝誠を發揮すればすむと語っている。したがって北朝鮮はあちこちに金日成、金正日の銅像を建てておいて、北朝鮮の住民に銅像を崇拜させている。

北朝鮮は住民たちに幼年期から最高指導者（「首領」）に対する公式的な個人崇拜と絶対的服従を対して作る思想教育体系を運営して、公式理念と体制宣傳から抜け出すいかなる思想も効果的に斜断している。北朝鮮では政治宣傳は、日本、アメリカ、韓国を念に北朝鮮の敵対勢力およびその国民に対する民族的憎悪心を助長する所に作用する。

〈北朝鮮の宗教政策〉 マルクスは資本論で「宗教はアヘンである」と言った。したがって共産国家は宗教を奨励せず弾圧される。しかし全世界の共産国家中、北朝鮮だけが

宗教を抹殺した。

以前 ソ連や中国、東欧の共産国家には 教会と牧師が存在した。たゞ国家で宗教が拡散しないうに弾圧し、日曜礼拝に人々がこれないようにした。

平壤はあるとき東洋のエルサレムと呼ばれた。しかし北朝鮮の政権が入ってきて、宗教抹殺政策によってすべての教会堂をなくし、聖職者を処刑した。今北朝鮮に建設されている ^{カトリック} 山岳教会、^{プロテスタント} チルギル教会、^{キリスト教} 義忠聖堂などは 1988年以後に建てられた。北朝鮮は、韓国が 1988年にオリンピックを開催するや、応酬するために作ったのである。しかし本当の教会施設にはない、外部世界に、あたかも北朝鮮にも宗教を許容するかのうように宣伝するためのものに過ぎない。

以上 太永浩「対北朝鮮の宗教弾圧と北朝鮮の表現の自由」(2020.12.29)より

(上記内容に対する 編集子(小川)の感想)

- 北朝鮮における法の構造で 社会主義憲法が三番目の地位という指摘は鋭い。憲法に表現の自由がうたわれているが、三番目の低すでは 実際には 否定されていることを意味する。
- 北朝鮮は世界の共産主義国家の中で 宗教 特にキリスト教を徹底的に抹殺しているという指摘も注目と仰る。特に金日成を神格化した主体思想、唯一思想が宗教的思想であるという指摘も見事である。強制であるだけに、私には「汚い宗教である」という形容が自然に湧き出た。編集子は無信者者であるが、福音書のイエスの思想には引かれる。それと比べると 金日成思想は何と ^{汚い} 宗教であることか!! 太永浩氏は現在 61.2歳である。若い! この若さこの鋭い知性に 期待したい。太永浩氏が 韓国に亡命したとき、北朝鮮は 奴隷制国家であると指摘された。そのとき 奴隷制という大罪は多少 違和感を覚えたが、上記の指摘を踏まえて その違和感は消えた。一日も早く北朝鮮の人々に、私たちが今享受できている 思想の自由、表現の自由、感受性の自由が 味わえるようにしなければならぬ。強制収容所(政治犯収容所)を一日も早くなくすなければならぬ。会員の皆さん、太永浩さんの上記のような 簡潔な指摘をくりかえし読んで、北朝鮮の真実をよくつかみ、これを友人たちに伝え、北の人々を救うために 努力しようではありませんか。

本誌100号を 太永浩氏の上記の一文の翻訳紹介で終えることか、できることを、ありがとうございました。かつうれしく思います。(文責 小川晴久)